

1. 検討の方向性について

- ① 第5次計画のフォローアップを継続的に行う
- ② 第6次計画の策定に向けた論点整理を行う
- ③ 検討会報告書の決定に向けた議論を行う

2. 検討の視点について（実態調査から見える特徴）

- ① 利用時間の長時間化：インターネットの平均利用時間が青少年（満10歳～満17歳）で約4時間41分と前年度と比べ17分増加したが、令和3年度の1時間増に比べると落ち着いている。
- ② 低年齢層の利用率：満0歳から満9歳の低年齢層のインターネット利用率が74.4%（昨年度比+0.1）で前年度と同水準。小学生は90%を超えている。
- ③ **青少年の利用を前提とした取組**：フィルタリング利用率は43.6%（昨年度比-0.9）で前年度と同水準。機器の設定やOSの機能によりコンテンツ制限や時間管理をしている保護者がそれぞれ約15%。

3. 検討会の進め方

- 【第56回（令和5年7月）】 論点整理、関係者ヒアリングなど
- 【第57回（令和5年10月）】 検討会報告書（骨子案）の作成に向けた議論
- 【第58回（令和5年12月）】
検討会報告書（骨子案）の提示、高校生ICT Conference最終報告会
- 【第59回（令和6年2月）】
検討会報告書（案）の提示
- 【第60回（令和6年4月）】
令和5年度フォローアップ、令和5年度実態調査、検討会報告書の公表⇒第6次基本計画の決定